

洞爺湖ビジターセンター 2015年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

9月19日(土) 有珠外輪山をあるこう



洞爺湖では木々の葉の色が薄くなりはじめ、日に日に秋の訪れを実感できる季節となってきました。秋の気まぐれな天気の中、洞爺湖ビジターセンター9月の自然ふれあい行事、「有珠外輪山をあるこう」をワカサリゾート株式会社 有珠山ロープウェイのご協力のもと行いました。

今回の行事はロープウェイに乗り、展望台から見られる有珠山の溶岩ドームを見た後、外輪山遊歩道を歩いて有珠山火山活動の痕跡を観察します。遊歩道の途中には約600段の階段があるため、なかなか訪れる機会の少ないコースです。



山頂駅の展望台からは洞爺湖や昭和新山が見られます。昭和新山は畑が火山活動で隆起してできた溶岩ドームです。



600段の階段の途中から火口原を見下ろすと、1977年噴火でできた銀沼火口から噴気が上がっている様子が見られます。

有珠山ロープウェイに乗車し洞爺湖展望台に到着。ウッドデッキの展望台から景色を見てみると、目の前には昭和新山が見られます。昭和新山は有珠山の1943-1945年の噴火で誕生した山(溶岩ドーム)で、有珠山の子どものような山と言えます。また、表面は赤い色をしていますが、本当の有珠山の溶岩は白っぽい色です。赤色は高温の溶岩に焼かれて、表面に張り付いていた土が焼かれて色づいたものです。振り返ると、1853年の噴火で誕生した大有珠が見えました。大有珠は1977年噴火で誕生した有珠新山に押されて、洞爺湖側に移動しました。

火口原展望台から約600段の階段を降りていくと、1663年の噴火でできた外輪山に出ます。外輪山遊歩道の左手には噴火湾方面が見え、7000~8000年前に火山活動が原因で起きた、山体崩壊の跡が眺められます。右手には1977年噴火で誕生した有珠新山やそれによって引き裂かれたオガリ山、小有珠、大有珠、銀沼火口が見られる予定でしたが、あいにくの天気によりほとんど見られませんでした。帰りは全員で息を切らしながら約600段の階段を登りました。有珠山の山頂付近は噴火の度に変化する地形が見られたり、噴気が出ていたり、火山の魅力たっぷりです。みなさまもぜひ一度外輪山遊歩道を訪れてみてはいかがでしょうか。



外輪山遊歩道からは火口や有珠新山、小有珠、大有珠が見られます。行事当日は標高の高いところに雲がかかっていました。

